

## ごあいさつ



本日は年末を迎え何かとお忙しい中「SK松本ジュニア合唱団2012クリスマスコンサート」にご来場頂きまして誠にありがとうございます。

当合唱団は1993年のSKF（サイトウキネンフェスティバル）が上演したオペラ「火刑台上のジャンヌ・ダルク」に出演した児童合唱団を母体に結成され、SKの文字を誇りに、地域に愛される合唱団を目指し活動を続け、19年の歴史を重ねるまでになりました。

卒団生との最後のステージになった「スプリングコンサート」、上田市で開催された「第23回長野県少年少女合唱祭」への参加や「お城 de ハーモニー」など、今年も様々な活動に取り組んでまいりました。

特に昨年の国連軍縮会議の関連イベントでお付き合いのあった柳澤寿男先生と、先生が指揮をされている「バルカン室内管弦楽団」との共演が出来たことは素晴らしい経験になりました。音楽だけでなく音楽を通した、先生の平和への思いとその活動には、子ども達は音楽の持っている力の素晴らしさを改めて考えることが出来たと思っています。こうした様々な体験こそが子ども達の感性を育み、音楽はもちろんですが生きる力となっていくものと信じています。

コンサートの第一ステージはミサ曲です。今年はグノーの「ミサ・プレヴィス」を取り上げました。心が洗われるような天使の歌声をお楽しみください。

第二ステージの「夕焼けの向こうに」は柳澤先生がバルカン室内管弦楽団の日本公演にあわせて児童合唱団と取り組んできた作品です。「夕焼けの向こうにある明日は私たちの手によって創られているのですから共に手を繋ぎ、心をひとつに生きていくことを願う」とのメッセージが込められています。

第三ステージは当合唱団の特徴でもあるボーイズのステージです。変声期が過ぎて深みの出た歌声でのおなじみの曲をお聞きください。

第四ステージは「ぞうれっしゃがやってきた」です。元々は日本中の子ども達に感動を与えた絵本ですが、子ども達の平和と幸せを願う合唱構成曲として今でも全国各地で歌い継がれています。

本日のコンサート開催にあたり、改めてご指導の先生方、キッセイ文化ホール関係の皆様方、またご支援を頂いている多くの方々へ感謝申し上げます、これからもSK松本ジュニア合唱団を温かく見守り、育てて頂くことをお願い申し上げますとごあいさつと致します。本日のコンサートを充分にお楽しみ下さい。

SK松本ジュニア合唱団  
団長 芦田勝弘